

活用現場
レポート

西明水産

広島県東広島市 カキ養殖



カキの名産地広島の安芸津湾で種カキと活魚の営業をされてきた西明水産様。1999年にFFCと出会い、カキの養殖業を再開されました。そこから継続してFFCを活用され、立派なカキの生産と、湾の浄化まで多くの成果をあげられています。FFCを活用し続けられている西明様の今を再取材いたしました。(前回取材 2003年10月)

FFCテクノロジー活用方法

カキ養殖

1

稚貝を付けるホタテ貝の殻に、活水器の水を散布。(真水)

- 2 針金を通したホタテ貝を沖に吊るし、稚貝の基となるカキの幼生(赤ちゃん)を付ける。(7~8月頃)



3

稚貝が付いたホタテ貝を抑制棚^{*}に移動し、成長させる。(半年間)



5

成長したカキを収穫(約3年)



4

海水を取り、FFCセラミックス処理を行う。その後、1000倍希釀になるようにFFCバイロゲンを添加。一晩おいたものに、③を30分浸漬して沖の筏に吊るす。FFCエースはカキ筏にまとめて3袋入れる。それが海底に溜まり、2~3年は崩れずに効果を出す。一気に入れるのもコツのこと。



活用効果



大ぶりで、濃厚な味のカキができるよう!

- 接着面が通常の4倍になることで重さや台風等で落ちることなく、大きく育つことができます！
- 大きくて大味ではなく、濃厚な旨味がぎゅっと感じられるカキです！

カキの稚貝の生存率がほぼ100%！

広島県では3年ほど前からほとんど稚貝が付かないという原因不明の深刻な被害^{*}が起こっています。しかし、西明様の筏の稚貝の生存率はほぼ100%で被害が出ていません！西明様だけ、稚貝がなぜ付くのかと同業者の方からも驚いて聞かれるほどの結果が出ています。安定して稚貝が取れることや高品質なカキを作ることで、規模を年々拡大されています。

養殖規模の拡大
(カキ筏の数)

2003年 13筏

2016年 45筏

*長雨による塩分濃度の低下、川からの栄養成分の減少等がいわれていますが、はっきりとした原因はわかっていません。

鮮魚店

● カキや魚の水槽に使用する水にはFFCセラミックス処理をした海水にバーリング(細かな気泡を起こす)を行い、使用。

● カキにはFFCセラミックスの水に加え、FFCバイロゲンを使用。

効果

セラミックスとバーリング装置を併用することで水槽内やセラミックスの容器の表面のヌメリなどが大幅に改善されました。むきガキは通常3~4日後には水が濁ってしまいます、西明様のカキは10日経っても濁らないそうです！



FFCを活用するきっかけ

『FFCと出会ったのは今から約17年前です。別の漁業組合の同級生から、他のカキと比べ物にならないほど良いカキが作れる方法があるらしいと聞きました。その方法は、丸い玉のようなもの(FFCセラミックス)と薬のようなもの(FFCバイロゲン)を使っており、自分もやってみたいと漁業組合の人に相談したところ、岩谷鷹須夫さんを紹介されました。それがFFCと岩谷さんとの出会いです。

岩谷さんからFFCの使用方法や、アドバイスをいただきFFCを導入。それ以来、岩谷さんはうちのプロデューサーのように協力していただき、ともに歩んできました。』



西明様と岩谷様

経営者のお話

FFCを活用し始めて4年目で大変大きな効果が出てきました。4年目にヘドロが減少し、とても美味しいカキが出来ました。それから試行錯誤を繰り返し、年々海もカキも良くなっています。特に今年はどうしたのかというくらい良いカキができました。

社長 西明 教康 様
奥様 西明 百合子 様

購入された方々からは、美味しいと涙が出るという嬉しいメッセージもいただきました。海も昔の様子を取り戻しています。綺麗になった海を見て、岩谷さんと一緒に船の上で男泣きしたこともありました。

パイロゲンやセラミックスは嘘をつきません。自宅の庭にイチジクを植えていますが、エースやカキ殻を活用して2年ですごく大きくなりました。今後カキ殻を50cmくらい撒いて、どういう果物が美味しいかやってみたいですね。これからもいろいろなことにFFCを活用してみようと考えています。

海のヘドロの減少

FFC導入前は、指で示すところまでヘドロが溜まっていた。



導入以前
60cm

活用4年後
15cm

現在
(2016年)

ほとんどない状態

カキ筏の海底のヘドロもなくなってきているそうです。

世界的にも有名なプロの潜水士 渋谷正信様が西明様の海域に興味を持たれ、海底を調査してくださいました。カキ筏の下はヘドロが堆積していることが多いということですが、西明様の筏の海底は、非常に良い環境で他のとは違うと驚かれていました。

今は全くヘドロがない！

ヘドロがあった場所

株渋谷潜水工業 潜水士
代表取締役

渋谷 正信 様

1949年 北海道生まれ。24歳で潜水士になり、約30年、3万時間を超える潜水経験を持つ。「海と人と心を結ぶ」を基本コンセプトに潜水士の会社を経営。環境の再生にも取り組まれており、「NHKプロフェッショナル～仕事の流儀～」や「情熱大陸」等複数のメディアでも取り上げられている。

「稚魚のゆりかご」アマモの復活

FFC導入前の1998年ころからアマモが減少し始めましたが、導入後の2003年頃には15万坪ほどの広さで再生しました。現在ではさらに広がり、今まで生えていなかった沖の方までアマモの群生が広がっているそうです。



アマモの群生